

一級建築士学科試験を受験された皆様

本当にお疲れ様でした。

1 日中試験を受けると最後はバテバテだったのではないかと思います。
最後まであきらめずに自分の持っている力を発揮できたでしょうか。

今年の本試験を一言で言うと、「計画」の実例建築物に代表される、手も足も出ないような新規の出題が例年ほど多くないため「易しいか?」と思いきや、フタを開けてみると得点が伸びにくく、昨年よりも難しい出題であったと言えます。

1. T A Cの合格推定点

T A Cでは合格推定点を次のように考えます。

■総得点

88 点

■科目基準点

計画 11 点、環境 11 点、法規 16 点、構造 16 点、施工 13 点（各科目過半）

上記の合格推定点はT A Cが独自に集計しているデータリサーチを基に推定したものです。

以下に昨年のデータと今年のデータを掲載します。

	計画	環境・設備	法規	構造	施工	総得点
令和4年平均点	14.7点	15.6点	23.1点	21.9点	16.0点	91.2点
令和5年平均点	13.7点	12.9点	22.6点	22.0点	17.1点	88.4点
差	-1.0点	-2.7点	-0.5点	+0.1点	+1.1点	-2.8点

昨年の合格基準点が91点、T A Cのデータリサーチが91.2点だったことを踏まえて、今年の合格推定点は88点と推定します。

環境が10点に下がるような可能性もあると思いますが、上記の合格推定点にわずかに達しない方については、令和2年の建築士法改正により学科試験に合格した後、5回のうち任意の3回の設計製図試験を受験できるようになったことを踏まえて、合格に自信が持てず中途半端な気持ちで設計製図試験対策を始めるよりは8月30日の学科試験の合格発表を待って、めでたく合格された際には翌年の設計製図試験に向けて課題発表前の早期から対策を始めるのが賢明なのではないかと思います。次の制度もご確認ください。

T A C設計製図本科生特別返金制度

2023年学科試験の合否の通知の発送日（9/5 予定）から3日以内の解約申し入れにつきましては、T A Cが公表した2023年学科試験合格推定点（88点）から2点以内、つまり **86点以上** の場合はお支払いの設計製図本科生受講料から¥30,000を除き返金します（入会金は除く）

2. 学科本試験の総評

難易度については、次のように考えます。

- ・全体 昨年より難しい
- ・計画 やや難しい
- ・環境 難しい
- ・法規 例年並み

- ・構造 例年並み
- ・施工 易しい

以下、各科目の特徴です。

計画

〔全般〕 実例建築物等からは、建築史1問、都市計画の著作物1問、住宅1問のみの出題でした。令和3年の8問と比較すると大違いです。その分、従来からの標準的な建築計画理論からの出題が増えました。あくまで予想ですが、令和4年が5問で易しかったことも踏まえると、**令和3年をピークとする実例建築物の偏重はひとまず落ち着き、今後は努力が実りやすい出題になるのではないかと思います。**

〔No.10 肢1〕 新規問題ですが、記述内容は、TACテキスト p231 に予想問題（オリジナル問題）として掲載されているTDM（Transportation Demand Management）の説明です。MaaS（Mobility as a Service）は文字通り「サービスとしての移動」であり、複数の公共交通機関のネットワークです。詳細は以下を参照してください。国交省ホームページと九州・沖縄各県のMaaS事業の例です。

<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/japanmaas/promotion/>

<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/content/001484140.pdf>

f

〔No.12 肢3〕 設問はフィリップ・ジョンソンの「ガラスの家」ではなく、ピエール・シャローの「ガラスの家」です。こんな出題の仕方もあるのですね。

<https://panasonic.co.jp/ew/museum/exhibition/14/140726/ex.html>

環境・設備

〔全般〕 設備の難度が例年より上がっており、難しかったと言えます。

〔No.3〕 「**建築物における衛生的環境の確保に関する法律（建築物衛生法）**」からの出題です。一酸化炭素の含有率（6ppm以下）、温度（18℃以上28℃以下）の部分が建築基準法施行令に先行して令和5年1月1日現在で法改正されています。TACテキストでは環境p13、法規p214で整理していた内容です。

〔No.6〕 太陽位置図を使った新規問題でしたが、図の読み方はそれほど難しくなかったのではないかと思います。応用力が試された問題です。

〔設備〕 難解であった設備については、1問の中に複数の新規問題が入っているものが多いことが難度を上げている理由ですが、次のように分類できます。

①落としてはいけないもの（過去問）

No.11（開放式・密閉式冷却塔の送風機動力）、No.13（ボイラー室は第一種換気方式）、No.16（力率。分母・分子が逆）、No.17（配電電圧と電線の太さ）、No.20（BEIではなくERR）

難しいと言われる中でも最低この5問は確実に得点できたということが、とても重要なことです。

②過去問の理解で応用して欲しいもの

No.12（リバースリターン方式・ダイレクトリターン方式の冷温水配管スペース）

③想像力で解答して欲しいもの

No.19（エキスパンションジョイント部分を通過する配管は揺れの小さい低層部）

④難問

No. 14（FRP製の受水槽の水槽照度率）、No. 15（雨水排水管径の算定に用いる最大雨量1時間値と10分間値）、No. 18（P型・R型受信機。令和13年出題の応用です。）

法規

〔全般〕難易度は例年並みです。新規問題や調べるのに手間がかかる問題も多いのですが、解答肢が光っている設問が多かったと言えます。

No. 6、7、9、10、14、19、20、22、23、29などです。

そのような場合は特に、本試験で制限時間内に解き終えるためのテクニックとして、肢1から1肢ごとに法令集で調べず、まずはそれ以降の選択肢も一通り見て、「誤り」の第一候補、第二候補を法令集で調べることが極めて有効です。**必ず修得するべきテクニック**とも言えます。そして、第一候補、第二候補の絞り込みができ、その勘所が当たるためには、問題集の実施あるのみなのです。

構造

〔全般〕難易度は例年並みです。

以下、特徴的な問題について説明します。

〔No. 18〕荷重－変形関係の模式図を使った難問ですが、細長比の大きい筋かいはいは小さい荷重で変形が大きくなることを考えれば、図の意味を類推できたのではないかと思います。

〔No. 24肢2〕これも難問ですが、鋼材ダンパーのエネルギー吸収能力は塑性変形によるものですので、弾性範囲ではその能力は発揮できません。

〔No. 27肢1〕これも難問ですが、講義の中で木材のめり込みは靱性に富むと説明したことを覚えていた方は得点できたのではないかと思います。

施工

〔全般〕近年の難しさと比較すると、今年は過去問が理解できていると消去法を含めて得点できるように配慮されているように感じます。

〔No. 3（品質管理）〕解答肢である肢4は新規問題ですが、残りは過去問ですので消去法で解けます。

〔No. 4肢2〕仮設店舗の新築に係る緩和を受けるための許可申請書は、建築主事ではなく特定行政庁に提出します。建築主事のつかさどる建築確認は、許可（本来、禁止されているものを例外的に許すこと）とは異なることがポイントです。

〔No. 10（コンクリートの調合計画）〕**JASS 5（鉄筋コンクリート工事）の改定**にかかわらず、従来どおり、「水セメント比」「単位セメント量」が出題されたことは注目点です。このNo. 10も解答肢である肢3は新規問題ですが、残りは過去問ですので消去法で解けます。

〔No. 11肢4〕解答肢である肢4（構造体コンクリートの圧縮強度の検査の供試体は3台の運搬車から1個ずつ採取する）は試験の定番です。新規問題の肢3に迷わされずに解答できないといけません。

このNo. 10とNo. 11の結果を見るだけで、正解できた方は合格と言っても過言ではないと思います。このような問題が解けるようになるこそ「合格への道」と言えます。

総評は以上です。

皆様の好結果を祈念しています

TAC建築士講座

令和5年7月24日